

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
レクリエーションアクティビティ I Recreation Activity I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(レクリエーションインストラクター資格申請に必要な科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
レクリエーションアクティビティ II、レクリエーション理論				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
加藤秀治	本館 2F	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
「レクリエーションアクティビティ I」では、レクリエーションの楽しさを体験し、支援者としてのレクリエーション技術を実践を通して学習する。				
授業の目標				
①レクリエーションの意義をしっかりと理解し、その必要性について、説明できるようにする。 ②アイスブレイキング・ホスピタリティについて学び、実践できるようにする。 ③目的や対象に合わせたレクリエーション活動の知識や、技術の方法を身につけることができるようにする。 ④レクリエーションを通して、コミュニケーション力を身につけることができるようにする。 ⑤CSSプロセスについて理解出来るようになる。				
授業の方法				
理論の説明以外にもコミュニケーションワークやグループワークを多く取り入れて学習する。特にレクリエーション種目や活動などの体験をしながら、実技指導やロールプレイを取り入れる。また、毎回ふりかえりシートを配布し、授業で感じたことや、学んだこと、気づいたことなどを記入する。				
学習の成果（学習成果）				
①レクリエーション支援者としてホスピタリティを持った援助や技術を習得し、コミュニケーション力を発揮することができる。 ②レクリエーションを提供することの喜びを感じる事が出来るようになる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の評価、進め方など			
第2回目	良好な集団づくりの方法① アイスブレイキングモデル			
第3回目	良好な集団づくりの方法② アイスブレイキングの効果を高める支援技術			
第4回目	信頼関係づくりの方法① あたたくもてなす意識をもつこと あたたくもてなしたいという気持ちが伝わるように配慮すること			
第5回目	信頼関係づくりの方法② 気持ちを受け止めていることを伝えるためのコミュニケーション技術、意思疎通を促進するためのコミュニケーション技術			
第6回目	レクリエーション活動の展開法① ハードル設定を基としたアクティビティの実践			

第7回目	レクリエーション活動の展開法② ハードル設定を基としたアクティビティの実践②	
第8回目	レクリエーション活動の展開法③ ハードル設定に基づいたレクリエーション活動のアレンジの基本	
第9回目	レクリエーション活動の展開法④ ハードル設定に基づいたレクリエーション活動のアレンジの応用	
第10回目	レクリエーション活動の展開方法⑤ C S Sプロセスに基づいたレクリエーション活動	
第11回目	レクリエーション活動の展開法⑥ C S Sプロセスに基づいたレクリエーション活動②	
第12回目	レクリエーション支援の実施① 立案したプログラムを用いたレクリエーション支援の試行	
第13回目	レクリエーション支援の実施② 立案したプログラムを用いたレクリエーション支援の試行	
第14回目	レクリエーション支援の実施③ 立案したプログラムを用いたレクリエーション支援の試行	
第15回目	レクリエーション支援の実施④ 対象者の目線に立った試行にレクリエーション支援の試行に対する評価	
事前・事後学習	事前学習：テキストの該当部分を読んでおくこと 事後学習：実技の種目名や指導の進め方をノートなどを用いて振り返っておくこと	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	常にノートを取り、授業に集中している。意見を求めた際には、しっかりと意見を述べる事が出来る。グループワークでは、積極的に発言をしたり、コミュニケーションをとっている。
レポート	20%	毎回の振り返りシートに書かれている内容を評価
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	50%	アクティビティを選択し、模擬指導を行う
その他		
教科書と参考図書		
日本レクリエーション協会 『楽しさをおとした心の元気づくり』～レクリエーション支援の理論と方法～ 澤村博ほか「これからのレジャー・レクリエーション 余暇社会に向けて」 改訂3版		
履修上の留意点・ルール		
実技が多いため、服装や身だしなみに注意すること。体育館で行う際は食べ物禁止		